

小唄

揺れる光によろけつつ

揺れる^{みなも}水面に誘われて

揺れる心は筆をかき分け
深い沼へと自ら沈む

これが私の哀しい^{さが}性よ

と^わ久に輝く光の^{うち}中の

健気な心も私には
眩しすぎる光に怯え
尊大さとしか映らない
これが私の愚かな懷疑

(1982.8.22)